

## 第4回共同経営・統合新病院整備に係る有識者会議 議事要旨

- 日時 令和6年5月26日(日) 13時00分～14時30分
- 場所 ウェディングプラザアラスカ4階 ダイヤモンド
- 出席構成員(13名) 青森公立大学 足達准教授  
 東北大学 岡田教授(リモート)  
 弘前大学 片岡教授  
 弘前大学 福田学長【座長】  
 青森市医師会 北嶋会長  
 青森地域広域事務組合 増村消防次長(村上消防長の代理出席)  
 平内中央病院 首藤院長  
 青森県医師会 高木会長  
 全国自治体病院協議会 丹野青森県支部長(十和田市立中央病院事業管理者)  
 医療法人芙蓉会村上病院 水木院長  
 青森市町会連合会 佐々木会長  
 乳がんピアサポートBECあおもり 佐藤代表  
 青森市病院運営審議会 原子前委員
- 欠席構成員(1名) 血液疾患と歩む患者・家族の会 納谷氏(青森県医療審議会委員)
- 案件
- (1) 第3回有識者会議の議事要旨について
  - (2) 共同経営・統合新病院整備に係る整備場所について
  - (3) 共同経営・統合新病院の経営形態について
- その他

**(1) 第3回有識者会議の議事要旨について**

- ・意見なし(前回の議事要旨について承認)

**(2) 共同経営・統合新病院整備に係る整備場所について**

(事務局) ※説明一部抜粋

- ・令和4年12月に開催した第4回共同経営・統合新病院整備調整会議において地震工学、建築学、災害医療、都市計画、地域計画、救急といったそれぞれの分野についての学識経験者等の有識者の皆様からいただいた御意見を踏まえ、青森市としてまちづくりの視点から整備場所等検討会議で検討した。
- ・今回の検討に当たり、改めて県と市で検討する場所についてそれぞれ約3万平米以上の土地について、県と市が持っている土地を洗い出し、その中で今後新病院の整備できる可能性がある場所を検討対象地として3ヶ所ピックアップした。少し幅広に検討するため外環状線周辺エリアの私有地についても検討の対象に加えた。
- ・現在の検討対象地及び外環状線周辺エリアの私有地について、主にはまちづくりの部分につ

いて数値をデータで示し検討したところであり、県立商業高校の跡地、それから現在の県立中央病院のところについては、土地としておよそ10万㎡あるが、埋蔵文化財の遺跡があることにより、今現在、無条件で建設できると考えられるのは想定面積として3万～5万㎡程度になる。

- ・県の総合運動公園の土地は、同じように三内丸山周辺の遺跡があり、それらの部分を除くと無条件で建設できるのが7万3,000㎡程度、条件付きではあるが2万7,000㎡と合わせて10万㎡程度となり、この土地については、三内丸山遺跡からの眺望というものが世界遺産の運用上、制限されており、概算で20メートル程度の建築の制限がかかる可能性が高い。
- ・青い森セントラルパークは、現在、検討対象地としている7万4,000㎡の土地の部分の他に、周辺に青森市が保有している青い森セントラルパーク周辺の用地がある。この部分について、場合によっては条件付きで使うことができる可能性もある。
- ・外環状線周辺エリアは、それぞれ外環状線の周辺をエリアとして検討した。
- ・通院アクセスは、例えば、路線バスでは、現在、バスが通っているエリアの周辺では、それ以外のバスの路線には影響はないが、全く路線がない場合では、市全体ではバスの路線数が限られているため、大きく変更をかけると残りに大きく影響が出る。
- ・救急車到達圏人口は人が多く住んでいるエリアを中心に考えると、多くなるという傾向になっている。
- ・令和4年の第4回共同経営・統合新病院整備調整会議での学識経験者等の有識者からの御意見としては、まちづくり、通院アクセスの都市計画との整合性については青森市都市計画マスタープランの考えに則るとともに整合を図っていくことが望ましいのではないかな等の意見、まちづくりに与える影響については一般論として多くの住民が利用する施設は中心部にあると利便性が高く、コンパクトなまちづくりが可能等の意見、圏域人口移動時間については単純にまちの端にあるより真ん中にあることが地理的に良く、他方向からアクセスすることができるのではないかな等の意見をいただいた。
- ・道路状況は、新病院整備により、周辺道路の交通量は現状より増えることが容易に予想されるものの、どのくらい混雑するかは、患者などのデータをもとに交通量シミュレーションを行い、その影響を検討する必要があるのではないかな等の意見をいただいた。
- ・公共交通は、病院は高齢者や妊婦などのいわゆる交通弱者が多く利用する施設であり、公共交通であるバスは重要であって、県全体からのアクセスを考えると、バスだけではなくて鉄道でのアクセスも考慮した方がいいのではないかな等の意見をいただいた。
- ・救急搬送については、中心に位置することで東西南北からアクセスでき、医療機関までの時間が短縮され、救命率の向上が期待できるのではないかなということに加え、患者搬送環境は、救急自動車の走行時間の短縮、さらに傷病者の安静を確保した状態で搬送するために十分な道路幅員を確保することや、傷病者の負担にならないような平坦な路面、また冬季間における確実な除排雪による搬送経路の確保が望ましい等意見をいただいた。
- ・災害については、地震として想定されている震度6クラスの地震の場合は、現行の耐震基準を満たせば、躯体には影響ないという判断ができるのではないかなという意見のほか、津波については建物への浸水だけではなく、押し流された船や自動車などの衝突により建物などが損壊するといった影響も考えられること、さらに、仮に施設機能が維持されても、物資の搬入やスタッフの交代要員の受入ルート確保など、運営体制の維持が難しいと思われるので、できれば津波が想定される場所は避けるべき等との意見をいただいた。洪水については、洪水は地震や津波などと

違い、多くの傷病者が災害拠点病院での診療を必要とすることは想定しにくいことから、浸水深0.8m程度であれば、土地をかさ上げすることで浸水を防ぐことは技術的に可能である等の意見をいただいた。

- ・青森市統合新病院整備場所等検討会議の各メンバーには、令和4年の第4回共同経営・統合新病院整備調整会議と同じようにそれぞれの部分についてさらに深掘りをしていただき、その結論として資料としてお示しさせていただいた。
- ・結果、青い森セントラルパークが望ましい、県立中央病院、現在の中央病院が良い、統合新病院の最寄り駅として新駅の設置が実現すればという条件付きで青い森セントラルパークが望ましい、津波の問題がクリアできるのであれば、旧県立商業高校および県立中央病院敷地が一番いいが、どうしても津波の問題が大きいということであれば、青い森セントラルパークになると思うといったような意見をいただいた。
- ・青森市統合新病院整備場所等検討会議で検討を行った当時の浸水想定区域について、令和6年2月に変更となった箇所があった。変更後の傾向としては、下流の部分についても若干これまでの浸水よりも多くなる部分もあるが、2倍になるなどというものではない。
- ・青い森セントラルパークとした場合の八甲田大橋や中央大橋経由ルートでの渋滞分析とその解決策については、将来の交通量推計、交通量分析を令和4年度に実施している。その結果として、国道103号八甲田大橋は減少、県道120号中央大橋では横ばい、青い森セントラルパーク東西道路は1日当たりで3,000~4,000台の増加見込みという結果になっている。
- ・当該エリアに対する渋滞対策については、青い森セントラルパーク東西道路は令和5年12月に開通しているが、将来交通量の推計などは青い森セントラルパーク東西道路が開通する前の令和4年度に実施したものであるため、改めて青い森セントラルパーク東西道路の開通後の実際の交通量を詳しく調査した上で、詳細なシミュレーションを行い、具体的な対策を行う必要があると考えている。どのような対策が必要なのか、その対策を行うための時間や経費の検討が必要になると考えている。
- ・青森市統合新病院整備場所等検討会議では渋滞対策について示しており、その内容は、病院への入口を2ヶ所に分け、入口交差点に右折レーンを設置、国道103号桂木四丁目交差点に右折レーンを設置、バスや救急車両の通行を考慮し既存道路の車道を拡幅、これは新たな用地取得は見込まずに行うものである。これらにより、車両3台分の通行経路を確保するイメージとなる。

(福田座長)

- ・これまでの議論の流れを整理するが、2年ほど前に両病院のあり方検討協議会というのがあり、その中で整備場所の考え方として、4つのことを提言している。  
1点目として、医療の高度化や療養環境の充実など、整備に必要な面積が確保できること。それから2点目は、津波や洪水などによる大規模災害発生時においても、診療に重大な支障をきたさないこと。それから3点目は、工期短縮および費用節減の観点から、既存建物がなく、確保が容易な土地であること。そして最後、圏域内外からの救急患者の搬送や患者の通院アクセスに適していること。この4つの論点について、それから共同経営・統合新病院整備調整会議において御議論いただいて、その後、青森市の統合新病院整備場所等検討会議で十分な議論がなされて今日に至っている。

(片岡構成員)

- ・マグニチュード8の地震は間違いない、ほぼ間違いなく起こる。震度としてこのくらい考え

ていくのは大事で、津波については確率、可能性はちょっと低くなっている。

(福田座長)

- ・従来の検討対象地3ヶ所の他に、市の会議では、外環状線周辺エリアを加えた形で計3回にわたり御議論・御検討いただいていた。

(佐々木構成員)

- ・まちづくり、救急搬送などの観点を踏まえると青い森セントラルパークが適地ではないかと思う。

(足達構成員)

- ・青森市の都市計画マスタープランとの整合性を考えると、やはり一番は青い森セントラルパークである。

(首藤構成員)

- ・先日、平内町の全医療機関が集まる会議において意見を聞いたところ、現状で青い森セントラルパークを推す医者は誰もいなかった。現在の県立中央病院の位置であるとか環状線道路を使える場所でない、周辺の自治体病院その他の場所から来るのには、やはり問題があるだろうという意見が大勢を占めていた。また、青い森セントラルパークにするのであれば、せつかく鉄道が通っているのであるから、新駅の設置は必須だろうと。さらに、自家用車を利用する患者及びその家族がかなり多いのは確かである。新病院が建つときにアクセスも含めて完成品として提供してもらえるのであれば、青い森セントラルパークでも良い。新病院の建物と、そこへのアクセスをセットで提供していただければ問題は解決するかなと感じた。

(丹野構成員)

- ・西の要の弘前大学医学部附属病院、東の要の新病院でお互いが連携して青森県全体の医療を担っていくことになると思うが、自分としては、外環状線周辺エリアはなかなか捨てがたいと思っており、実際、私有地をこれから確保しようとするのは非現実的だと思うが、もしそのエリアに公有地のような候補地がないものかと考えた。

(佐藤構成員)

- ・新駅のことが出てきているが、青い森鉄道の本数は1時間に1本程度であり、首都圏のように5分や10分に1本程度でないことを考えると、患者にとって非常に利便性が悪いということは否めない。そういう意味でも自家用車を使うということは絶対になるだろうし、自動車が集中してくるとするのは目に見えている。新病院へのアクセスについても一緒に考えていかないと。周囲の渋滞により、市民生活に支障をきたすということであれば非常に問題ではないかと思う。

(北畠構成員)

- ・まちづくり、もっとも連携しないといけないのだが、基本的に住民の医療を中心に考えると、まちづくり中心というところから少し離れても良いかなというのは個人的に思っている。新しい道路ができるものの、やはり混雑するだろうという気もするので、もう一回考えた方が良いのかなと思う。

(片岡構成員)

- ・新しい場所を考えることについて何ら反対しない。ただ、検討するのであれば、外環状線周辺エリアには非常に軟弱な地盤のところもあるので、もし比較検討できるのであれば地盤の良し悪しも含めて検討していただきたい。

(水木構成員)

- ・はっきりここが良いという、まだ断言できる状況ではないと思う。

(片岡構成員)

- ・そもそもやはり都市計画ありきだと思う。

(増村構成員代理)

- ・中心部にこういう医療機関があるというのは、全体的に救急搬送時間の短縮にも繋がるということで、救命率の向上にもなるものと考えられる。管内の救急搬送を今まで通りスムーズに受け入れできるような体制をこれからも作っていただきたい。

(岡田構成員)

- ・道路と十分な駐車場、その点は広く検討をしなければいけないのかなと思う。

(福田座長)

- ・青い森セントラルパークを推す方が多いが、今回新たに外環状線周辺エリアで私有地でない場所がないかどうか検討していただき、もしあるのであれば青い森セントラルパークと比較した上で次の会議でどちらにするか、ということを決めたいと考えている。

(事務局)

- ・今御意見いただいたことについて、この場でイメージできること、他に全く答えは持ち合わせていないが、せっかくいただいた御意見であるので、早急に対応したいと思う。ある程度時間がかかるのかも含め、その辺は座長と相談しながら対応したいと思う。

(足達構成員)

- ・本格的な渋滞予測シミュレーションに力を入れてやってもらいたい。また、現在の県立中央病院・市民病院への来院者が何割くらいどこから来ているのかという利用者のデータというのはあって然るべきだと思う。

(福田座長)

- ・もう一度、整備場所について検討するということに関しては、皆さんの御賛同が得られたということで、そのように進めさせていただきたいというふうに思う。他に場所がないか検討することを今回決めさせていただき、県の方から新たな場所の提案があった際には、様々な視点、たとえばアクセスの問題とか地盤の問題とか、それらの情報を全て揃えて議論のうえで、青い森セントラルパークが良いのか、あるいは新たな場所が良いのかを次の会議で検討するということである。

### **(3) 共同経営・統合新病院の経営形態について**

(丹野構成員)

- ・地方独立行政法人の方がより自律的で全国に好事例もあるが、基本的には現場の職員の皆さんがお決めになることかなと思っている。

(福田座長)

- ・管理運営側からすると、地方独立行政法人の方が運営しやすいが、全職員を対象としたアンケートの結果をもとに県知事と青森市長で判断されることになる。

### **その他**

(福田座長)

- ・基本構想・計画については令和6年度中の策定を目指しており、そのスケジュールを念頭に

置いて進めなければならない。整備場所についてはいつ頃までに決定する必要があると理解すればよいか。

(事務局)

- ・基本構想・計画については、年度内に策定したいと考えているが、来年以降の段取りを踏まえれば、できれば年内にも策定したいと考えている。前提となる整備場所については、県議会・青森市議会でも議論していくことなどを考えれば、この有識者会議での結論の目途は大体8月上旬から中旬でできればということ考えている。

(福田座長)

- ・遅くとも8月上旬くらいまで、それまでに整備場所を決定できるように本会議でも一定のとりまとめを目指してまいりたい。

以上